



クラスタ拡張—コンバージド ノード

・ [クラスタ拡張—コンバージド ノード](#) (1 ページ)

クラスタ拡張—コンバージド ノード

始める前に

- ・ 3.5 (2a) よりも前のリリースで稼働している Hyper-V クラスタの場合、クラスタ拡張はコンバージド ノードでのみサポートされます。
- ・ コンバージド ノードは、クラスタ作成後に追加できます。
- ・ この手順には、Windows オペレーティング システムのインストールも含まれます。
- ・ クラスタを展開する前に、Windows ISO ファイルが使用可能であることを確認してください。

手順

ステップ 1 Cisco HX Data Platform のインストーラを起動します。

ステップ 2 ログイン ページで、次のクレデンシャルを入力します。

ユーザ名 : root

パスワード (デフォルト) : Cisco123

(注) システムは、デフォルトのパスワード [Cisco123] で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。ユーザーが入力した新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。

ステップ 3 [利用規約に同意します (I accept the terms and conditions)] チェックボックスをオンにして、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ 4 [ワークフローの選択 (Select a Workflow)] ページで、[クラスタ拡張 (Cluster Expansion)] を選択します。

ステップ 5 [クラスタ (Cluster)] ページで、次のフィールドに入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。

フィールド	説明
[クラスタ管理ホスト名 (Cluster Management Hostname)]	既存のクラスタのホスト名。
[ユーザ名 (User Name)]	既存のクラスタの管理者ユーザ名。
[パスワード (Password)]	HX クラスタの管理者ユーザのパスワード。

ステップ 6 [クレデンシヤル (Credentials)] ページで、次のフィールドに入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。

フィールド	説明
[UCS Manager Credentials]	
UCS Manager ホスト名 (UCS Manager Hostname)	Cisco UCS Manager の FQDN または IP アドレス。
UCS Manager User Name	管理者ユーザーまたは Cisco UCS Manager の管理権限を持つユーザー。
Password	UCS Manager のパスワード。
ドメイン情報	
[HXサービスアカウント (HX Service Account)]	既存のクラスタに関連付けられた HX サービス アカウント。
[パスワード (Password)]	HX サービス アカウントのパスワード。
制限された委任	
[制限付き委任を今すぐ設定する (推奨) (Configure Constrained Delegation now(recommended))] または [制限付き委任を後で設定する (Configure Constrained Delegation later)]	次のいずれかのチェックボックスを選択します。 制約付き委任 (Constrained Delegation) は、VM ライブ マイグレーションに必要です。制限付き委任を後で設定する場合は、「 ライブマイグレーションとVMネットワークの静的IPアドレスの設定 」で説明している手順を使用してください。
[HXサービスアカウントのパスワード (HX Service Account Password)]	制約付き委任 (Constrained Delegation) に必要です。

フィールド	説明
HX サービス アカウントを使用します。	HX サービス アカウントが提供されている場合は、チェックボックスをクリックします。 オンにすると、制限付き委任に HX サービス アカウントが使用されます。ユーザはドメイン管理者である必要があります。
[ユーザ名 (Username)]	ドメイン レベルのユーザ名を入力します。
[パスワード (Password)]	ドメイン レベルのパスワードを入力します。
ハイパーバイザのクレデンシャル	
[ローカル管理者アカウント (Local Administrator Account)]	Hyper-V ホストのローカル管理者ユーザ名。
[パスワード (Password)]	ローカル管理者アカウントのパスワード。

ステップ 7 [ノードの選択 (Node Selection)] ページの [関連あり (Associated)] タブと [関連なし (Unassociated)] タブで、すべての関連付けられているサーバと関連付けられていないサーバをそれぞれ確認します。

[関連なし (Unassociated)] タブでは、既存のクラスタに任意のノードを追加できます。

[関連あり (Associated)] タブでは、既存のクラスタからサーバの関連付けを解除できます。

ステップ 8 [UCSMの設定 (UCSM Configuration)] ページで、既存のクラスタの VLAN 設定と MAC プール情報に関して自動入力される詳細情報を表示または変更します。次に、[続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 9 [ハイパーバイザの設定 (Hypervisor Configuration)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
<p>[ハイパーバイザ (HYPER-V) のインストール (Install Hypervisor (Hyper-V))]</p>	<p>このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。</p> <p>チェックボックスを選択したままにして、OS のインストールとネットワークの設定を有効にします。[参照 (Browse)] をクリックし、ISO ファイルを選択してアップロードします。または、ISO ファイルをそのエリアにドラッグアンドドロップします。</p> <p>[インストールするオペレーティングシステムの選択 (Select the Operating System you wish to install)] から、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2016 Datacenter (デスクトップエクスペリエンス) • Windows Server 2016 Datacenter (Core) • Windows Server 2019 Datacenter (デスクトップエクスペリエンス)

[続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 10 [ノードの設定 (Node Configuration)] ページで、[コンバージドサーバの追加 (Add Converged Server)] をクリックしてサーバを既存のクラスタに追加します。

ステップ 11 [開始 (Start)] をクリックして展開を開始します。[進捗状況 (Progress)] ページには、設定タスクの進捗状況が表示されます。

ステップ 12 次のインストール後の手順を実行します。

- [ライブ移行と VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定](#)
- (任意) [インストール後の制約付き委任](#)
- [ローカルのデフォルト パスを設定する](#)
- [Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認](#)